

議員連盟活動報告

個々の重要な事柄をテーマ別に研究、研鑽を重ねながら政策に反映させてゆく議員の集まりのひとつに議員連盟(議連)があります。自民党内だけのものもあれば超党派の議連もあり、各議員はそれぞれ自発的に幾つかの議連に所属しています。衛藤晟一議員は現在75の議連に所属、活動しています。今回はその中のいくつかを紹介します。

●明日の日本の保育の本質を考え行動する議員連盟

保育制度改革にともない、保育所の役割をもう一度考えようというもの。目的は「保育を受けるひとり一人の子供が人として尊重され愛され、その未来における可能性を最大限発揮することができるような保育制度の仕組みが構築されることを目指す」。新制度の法案提出に向け、保育団体等から意見等を聞きながら、効率性や利便性だけが突出し優先される「市場原理主義」にならないよう話し合いを進めている。会員は衆、参自民党議員60人。晟一議員は会長を務める。



緊急総会

●真・保守政策研究会

平成19年に設立。参加議員は74人で晟一議員は事務局長。目的は政治研究と行動を通じて「真の保守」を築き上げる。将来の日本の指針を決める重要な政策を確立することを目指し、安全保障や農業再生、社会保障、教育、経済など多岐にわたり関連な意見交換、行動を展開している。主な活動として、中国共産党によるウイグル・チベット弾圧問題をテーマにした「中国の人権状況を考えるシンポジウム」の開催や、国境離島防衛の現状を調査する「対馬視察」などを行った。引き続き、国家の重要政策問題に取り組み、真保守議員の結集を目指す。



対馬視察

●公共放送のあり方について考える議員の会

71議員で平成21年設立、公共放送のあり方について検証することを目的にしている。某放送局が、日本の台湾統治に関し「日台戦争」や「人間動物園」等、事実と反する偏向的内容と思われる番組を放送、疑問を持った多くの声に応え発足した。これまでに台湾出身の評論家、金美齢さんや、黄文雄さんを招き、偏りのない日本の台湾統治についての実態を伺った。今後も多方面からの意見を聴取する。晟一議員は幹事長を務め、司会、運営など精力的に活動している。



金美齢さんを招き意見交換

個々の政策でも頑張っています!!

●天皇陛下御即位二十年奉祝国会議員連盟

平成20年に発足。会員数は459人(自民325、民主66、公明52、国民新8、改革4、新党大地1、無所属3)の超党派議連。晟一議員は事務局長。国民統合の象徴である天皇陛下のご即位20年を官民挙げてお祝いすることを目的に、民間の「天皇陛下御即位二十年奉祝委員会」と連携して平成20年12月19日、麻生太郎総理をはじめ各界4,000人の参列を得て、「天皇陛下御即位二十年奉祝中央式典」を開催、さらに本年4月10日にも「天皇皇后両陛下御大婚五十年をお祝いする集い」を開催した。今国会で本年11月12日を祝日にする臨時祝日法を成立させることが喫緊の課題。



合同役員総会

●真の人権擁護を考える懇談会

言論の自由を損なう恐れのある人権擁護法案に反対する目的で平成17年、30人超の議員が役員に就任した。晟一議員は副会長。人権擁護法案に反対するだけでなく、ADR(代替的紛争解決)制度や現行人権擁護委員の機能強化など、権利侵害を受けた人を真に救済する、あるべき制度の確立を目指している。この会に所属する議員の反対によって、自民党内で人権擁護法案は、逆に人権を蹂躪(じゅうりん)する危惧があることが示され、廃案に至った。

●修復腎移植を考える超党派の会

病気の治療で摘出した腎臓を、修復して他の腎疾患患者に移植することを修復腎移植という。25万人を数える透析患者、進まない日本の臓器移植。その中でもこの移植は「脳死」の議論とは一線を画すところが特徴で、適正な理由での摘出、臓器売買の禁止、インフォームドコンセント(説明と同意)の確認など厳格な基準の下、進めていこうというもの。平成20年から活動、勉強会、ヒヤリング等を重ね同5月、議連としての提言をまとめ、臨床研究の容認まで漕ぎ着けた。今後は先進医療から保険診療までを目指す。会員73人。晟一議員は幹事長。



関係者団体からヒヤリング

●がん対策議員連盟

名誉顧問に中曽根康弘元総理、顧問に森喜朗、安倍晋三元総理など党重鎮が並ぶ議連。日本人の死亡原因の内、男性の二人に一人、女性の三人に一人は「がん」と言われ、年間34万人(平成19年)が死亡している。その「がん」を日本発の先端技術も含め、撲滅していこうというもの。さる6月に初会合が行われ、がん対策の現状を確認したのち、東京大学・中村祐輔教授から革新的療法「がんペプチドワクチン療法」についての説明を伺った。この療法、現在は臨床研究の段階だが、我が国優位の先端技術として、議連は後押しをする構え。会員93人。晟一議員は事務局長。



設立総会

●精神障害者社会復帰促進議員懇話会

身体、知的に比べ遅れている精神障害者対策を充実しようと、休眠中の同会を平成20年、晟一議員らが集まり復活させた。心身ともに健全な地域社会づくりを目指し、併せて精神障害者が社会参画できる社会復帰施設を促進することが狙い。障害者自立支援法改正等について、関係団体からのヒヤリングや、意見交換を行った。会員は80人。晟一議員は幹事長を務める。

●日本会議国会議員懇談会

平成9年設立。会員223人の超党派議連。歴史、伝統を次代の子どもたちに伝え、共生共栄の世界に貢献する国づくりを推進している民間団体の日本会議と、理念を共有できる議員が集まり、政治の場での諸政策の実現を目指している。これまで憲法、教育、防衛、皇室、靖国神社など日本の基本的な問題に取り組み、政策立案並びに世論喚起のための行動を推進してきた。最近では、本年5月に麻生太郎総理に対し、靖国神社参拝や集団的自衛権の解釈変更を求める要望書を提出、6月にはジャーナリスト、櫻井よしこさんを講師に、北朝鮮の核実験への対策を協議したりしている。晟一議員は、政策審議会長。



櫻井よしこさんを招いて勉強会

自由民主党政務調査会職員 園部ゆかりさん



衛藤先生が社会部会長(当時)にご就任なさったのは平成6年でした。それ以来、党事務局として長らくお世話になっています。当時、政調の職員としてまだ日の浅い私にとって、先生の仕事ぶりは驚きの連続でした。どんなに難しい、厳しい条件にもドーンとぶつかり、何日も徹夜をしても成し遂げられる。私はへろへろになっているのに衛藤先生はぜんぜん平気。政治家ってすごいなーと感じました。厚生労働部会は年金、医療、介護、雇用、少子化対策等重要な問題を担当しています。これからも衛藤先生のお力が必要と思います。ご指導どうぞよろしくお願いいたします。

(社)全国肢体不自由児・者父母の会連合会会長 北海道議会議員 清水誠一さん



「障害者」と政治を力強くつなぐ、衛藤先生の行動力に感謝!! 障害者自立支援法は、衛藤先生の力で見直し案が提出されておりますが、「国から地方へ」の地方分権の流れの中、国が制度をつくり市町村が実施主体となりました。しかし、自治体財政は枯渇し、人材不足が顕著に表れており、現状では福祉サービスの地域格差は解消できません。都道府県にあっても「責任と役割」が分担できる仕組みに改正することが必要だと考えております。衛藤晟一先生の活躍に期待しております。

● えとう せいいち プロフィール ●



昭和22年、大分県大分市生まれ。戦傷者だった父親に連れられ、子供の頃から障害者ボランティアに携わる。大分県立大分上野丘高校、大分大学卒業後、25歳で大分市議会議員に初当選。平成2年、衆議院議員初当選。平成6年、自民党社会部会長就任、高齢者や障害者の地域生活支援に重点を置いた福祉政策を確立。平成8年、運輸政務次官。平成11年、介護保険制度確立に奔走。拉致議連事務局長として拉致被害者家族会と連携して経済制裁法制定。平成16年、厚生労働副大臣に就任。平成19年、参議院比例代表で当選。現在は、参議院自民党政策審議会長代理、党障害者特別委員長。